



今回は**高大連携・看護合同ゼミ**についてお伝えします。

## ◇ 中部学院大看護学科のゼミに参加し、子どもの貧困について考え討論しました。

**日時： 平成28年7月24日(日) 10:00~12:30**

**場所： 中部学院大学関キャンパス**

**参加者： 3年生希望者14名**

中部学院大学看護リハビリ学部看護学科のご協力で、高大連携看護合同ゼミが行われ、関高生14名が参加しました。馬場美穂先生、山田小夜子先生、植松勝子先生のご指導の下、子どもの貧困に関するゼミ形式のディスカッションを行いました。



最初は戸惑いましたが、先生やゼミ生の方々のサポートを受け、だんだんと自分の意見が言えるようになりました。ディスカッションと全体会を終えたのち、各自でオープンキャンパスに参加し、有意義な時間を過ごしました。

## ◇ ゼミに参加した生徒の感想

■今回のディスカッションを通して、「知る」ことが大切だと思いました。今日ディスカッションをしてみて、子どもの貧困への意識が変わりました。貧困への意識や認識がないと気づくことはできないので、ニュースや新聞を通して現状を知っていきたいです。自分にできることは少なかったり、難しかったりすると思いますが、貧困に対するアンテナを持って、自分にできることを考えて行動していきたいです。今日は有難うございました。

■今回のディスカッションを通して学んだこと、考えが変わったことは四つあります。

一つ目は自分が無知だったということです。自分の中で貧困に対する意識がないとその人が生活に窮しているということに気づいてあげられないと知り、看護の治療に関する知識だけでなく政策や保険制度などの知識も増やしていかないといけないことが分かり、大学で詳しく勉強していきたいと思いました。

二つ目は看護師の仕事についてです。貧困問題というのは、「看護師では根本的な解決ができないのでは」という疑問がありましたが、「サポートしてくれる施設や団体とその人とを繋ぐことができるのが看護師なんだ」と気付かされて、視野が広がったような気がします。

残りの二つは、私の中でのこれからの課題につながるものですが、「貧しい子供やその親にどれだけのことをしてあげればいいのか」ということと、「その人たちのセルフケア能力を上げるためには何をすればいいのか」ということです。自分ができる精一杯のことをしても、その人自身のセルフケア能力が上がるわけではないし、その場だけのサポートになってしまうので、発展途上国の地域に水をあげるだけでなく、井戸の作り方を教えるような自立できる能力を持ってもらうために何を教えることができるのか、また私自身が何を学ばばいいのかを、これから自分の中の一つの課題としていきたいなと思いました。

今日は貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

■自分はこのテキストを読む前に「子どもの貧困」について、発展途上国のことだと思っていま

した。また、ニュースで子ども食堂という言葉のみで、そういうものがあるのだなあと表面的に漠然としか知りませんでした。しかし、テキストを読んで、グループディスカッションを通して、難しい問題だなと感心を持ちました。

自分はテキストで読んだ養護教諭さんが子どもたちに対して行ったことは、素晴らしいと思うと同時に、根本的な解決策にならないと思いました。けれど、そのことを続けていけば、多くの人が問題に目を向け、その問題を解決させるために活動したり、理解してくれると思います。

自分は今回のグループディスカッションを通して、「子どもの貧困」は身近にあり、それに対して「知る」ことがとても重要だと思いました。「子どもの貧困」は本や新聞の記事になっています。けれど、そのことを「知る」ことの機会がなかったり、知識がなかったりすると、気づかなくて、子どもたちのSOSを無視してしまう形になります。そうならないように、テレビのニュースを見たり、新聞を読んだりして、「知る」こと、また友人や家族との会話の話題として、意見を出し合い、関心を高めることは、とても価値があり、「知る」こととそうでないこととは、大きな違いがあると思います。

今回のグループディスカッションは自分にはない考え方や視点で、有意義で実りある時間が過ごせました。有難うございました。

■今日中部学院大学の方とディスカッションをして、新たに知ることがたくさんありました。子供の貧困というテーマで、テキストを読む前の最初のイメージは発展途上国の子供たちでした。でも今回のテキストの話は大阪府の話で、自分の身近にある話で驚きでした。このことを解決するには、まずこの問題について知ることが大切だと分かったし、一人だけでなく他の人達と連携して取り組むことも大切だと分かりました。今日この会に参加していなかったら子供の貧困について知ることなかったし、考えることもありませんでした。とても良い経験となりました。ありがとうございました。

■私は今まで、子どもの貧困について考えたことがありませんでした。なので、今日色々な考えを持ってたので良かったです。貧困とはどういうものかを考えていなかっただけで、自分の身近で起こっていたり、自分にも起こりうることだとわかりました。そして、貧困で困っている子どもは、肉体的、精神的にもダメージを受けていると知りました。私は将来、看護師になりたいと考えているので、今日の事をいかして、貧困ということにも意識をもち、困っている子どもを助けられるようにしたいです。

■私は、経済的・健康的に不自由ではなく、周りの人にも、そのような人はいないため、貧困と健康について深く考える機会がありませんでした。貧困と健康の関係というと、私は、お金がなくて病院に通えないため、病気が悪化してしまうなど、肉体的な事しか思い浮かびませんでした。しかし、ディスカッションをしてみると、貧困で服が洗えず、ボロボロな服を着ているため、学校の子からいじめられ、精神的にも苦痛があるという事や、ご飯を食べてないため、近くのスーパーで万引きをしてしまう小さな子が増えている事に気づけました。

大学生のみなさんは、私達が思いつかなかった事まで、広く考えを持っており、私も勉強をして、様々な意見を持ちたいと思いました。

今回のディスカッションは、これからの将来のために必ず役に立つと思い、本当に良い経験をする事ができました。

■今日、「子どもの貧困」というテーマで話し合ってみて私は、多くのことを学ぶことができました。まず始めに、貧しい人たちが身近にいるということです。私は今までたくさんの貧困に関連するテレビを見たり、SGHの講話でも聞いたりしてきましたが、その多くがアフリカなどの発展途上国の話だったので、この日本でもご飯が食べられず苦しんでいる人々がいることを忘れがちになっていました。今日ディスカッションをして、日本人の100人中約16人の人達が貧困層だと知ることができました。

次に、私たちが貧困の子供たちに何をしてあげられるのかということです。今日、私たちが将来就きたいと思っている看護師の職で、どうしたら貧困の子供たちを助けてあげられるのかを考えることができました。ディスカッションで、貧困とは健康を損なっている人々のことで、精神面、身体面、経済面の3つのうち一つでもかけていけば健康を害しているとされ、貧困へと繋がってくるということが分かり、そこから、看護師は、貧困な人を把握し、経済面が無理でも精

心面では心のケアを、そして、身体面ではそういった子供達を精一杯看護することで助けられることができるということに結論付けることができました。

私は、こんなにも貧困に関して私たちに何ができるかを深く考えることができなかつたので、とても良い機会になりました。これから問題に差し掛かったときは深く追求して今自分に何ができるかをしっかり考えて、行動に移す力を身につけたいと思いました。

最後に、今日のディスカッションで、中部学院大学の生徒さんの皆さんのコミュニケーション能力等の高さにとっても驚きました。皆さんは自分の知っていることや体験から自分の意見をはっきり話していたし、司会の人は私たち高校生の目を見て反応を気にし、私たちに分かりやすく解説を添えたり、ヒントを投げかけて下さりました。そのおかげで私たちもより考えを深めることができました。看護師にとってコミュニケーション能力はとても大切なので、私も自分の意見をしっかりと伝えられるようにしたいです。

■本日は私達のためにあのような貴重な時間を設けて頂き、ありがとうございました。私がディスカッションを通して学んだ事のうち一番印象に残っているのは、貧困に苦しんでいる人々が「仕事があるにも関わらず貧しい、ワーキングプア」であるということです。そして同時に、自分をもっと社会の現状を知ろうと努力することが必要だと強く思いました。貧困には、経済的貧困・肉体的貧困・精神的貧困の3つがあると教えて頂きました。私は、経済的貧困・肉体的貧困が精神的貧困に繋がるのだと思います。お金が無いと病院に行けないし、病気になったらお金を稼ぐことが出来ません。お金は空から降ってこないけど、生きて行く上で必要な支出があります。例えば私に子どもがいて、生活が苦しいなか毎日「お腹空いた」と言われ続けたら、見当違いだと頭でわかってはいてもイライラしてしまう部分があると思います。日本が核家族化し、人と人の繋がりが希薄になっていることで、周囲に「助けて」と言えない人や、言いたくない人がいるかもしれません。そうして心が貧しくなってしまうたら、生きていることを「辛い、苦しい」と否定的に消極的に捉えてしまうんだと思います。私は今日の体験を通して、患者さんの小さな変化にもすぐ気付いて声を掛けられるような、精神的サポートが出来る看護師になりたいと思いました。その為にはまだまだ勉強しなければいけないことがたくさんありますが、今回の体験で得たものを生かして、自分の理想とする看護を実現出来るように力をつけていきたいと思いました。

■わたしは大学生の方と交流する機会が今までになかったので今日の合同ゼミはとても良い経験になりました。たった2ページのテキストでも一人一人異なる意見があつたり、賛同できるような意見があつたりと刺激的でした。また、大学生の方と私たち高校生の知識量や考え方が違い、自分はまだまだだなと思いました。

今回のテーマは「子どもの貧困」でした。私は、このテキストを読むまで日本には貧困はないだろう、自分には関係ないなと思っていました。しかし、実際は貧困があり、苦しんでいる人がいるのだと知りました。もしかしたら、私がこれまでに会ってきた人にもいるのではないかと考え、私はなんて裕福な暮らしをしてきたのだろうと思いました。

ディスカッションをしてみて、私は、誰かが気づく、繋ぐ、広げるということが大切だと思いました。保健室の先生が子どもの異変に気づき、その人だけでなく行政と連携することで子どもを助けることができるし、生活に困っていてもどうしたらいいかわからないという大人(親)には、制度を知らせることができる活動などをしていかなければならないと思いました。

また、制度などを新しく施行するには長い時間がかかると思います。なので、その間に学校の保健室やボランティアなどの活動を行い、支援ができる準備をしなければならぬと思いました。

■中部学院大学の大学生の皆さんと一緒にディスカッションをしてみて、とても良い刺激を受けることができました。今回の内容は、自分が普通に過ごしていて、あまり考えたことのないようなことでした。初めは、貧困は、海外の問題であるような気がしていました。しかし、日本でも貧困状態にある人が増えていて、子供たちにも影響が出ていて健康格差が生まれていると知りました。

子供は力が弱く、貧困であることを発信することが難しいので、周りの人が気づいてアクションを起こすことが、貧困状態にある子供や親にとって大事なことではないかと思いました。他にも、日本では貧困に関わる制度や機関があるので、そういう機関があることを知ってもらって助けることができると思いました。

私は看護師志望です。だから、将来医療の現場で働けるようになったら、貧困状態にある子供や親に寄り添い、そのことを知るだけでなく、発信したり、行動したりできる人になりたいと思いました。今回のディスカッションを通して、様々な視野を持つことは大切で、深く知ることで助けられる人がいるかもしれないということが分かり、これからは様々なことに興味関心を持っていきたいと思いました。

大学生の皆さんとディスカッションをするという本当に貴重な機会をいただけて、光栄だと思いました。本当にありがとうございました。楽しかったです。

■先日はお世話になりました。私はこのゼミに参加してとても自分のためになったと感じました。理由は、いろんな知識が増え様々な考えを知ることができたからです。私が一人でこの題材を読んだときに感じたことの何倍もの考えを持っていて本を深く読むことは大切なんだと気づきました。また、大学生の方は自ら分からなかったところを事前に調べていて、このようなことも大切なのだと分かりました。

このゼミのおかげで、看護師として病院で働くことにしか興味が無かった私ですが、養護教諭や保健師として子供たちの健康を支えるのも良いな、と視野を広げることが出来ました。

このゼミに参加してより一層気持ちを固めることが出来たので、これからも看護について色々調べたり勉強したり、日々頑張ろうと思います。

■わたしは今回のグループディスカッションに参加して、身近な問題として「子どもの貧困」が日本でも問題になっていることを初めて知りました。

わたしは今まで親や先生など様々な大人に支えられながら生活してきました。不自由なく暮らせています。しかし、わたしの身近なところにも、貧困という問題からまた、様々な問題が生まれ、それを幼い子がひとりで悩んでいたという事実を知って、驚きました。そして、将来自分が大人になった時、そういう子供が減ったり、また、ひとりで抱え込まないように気付いてあげられる必要があると思いました。

■また馬場先生の話聞いて、支援などについて、知らないということに問題があって、知らせるシステムが確立していないと聞いて、そういう問題が少しでも解決できるように、自分も発信できる人間になればいいなあとと思いました。

また様々な問題には様々な原因や様々な解決方法があるので、広い視野で見ることが大切だと思いました。